

4年 国語科研究授業のまとめ（10月26日）

1 単元名及び単元の目標

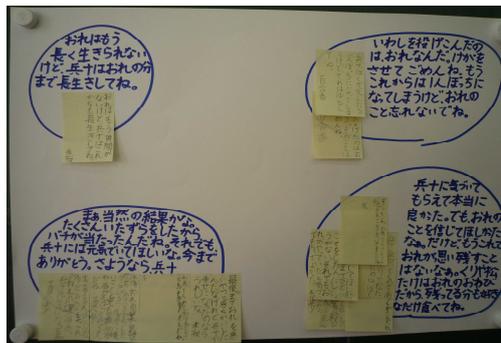
「ごんぎつね」（8/13本時）

◎物語を読んで、中心となる人物とほかの人物との関わりについて考え、感想を伝え合うことができる。

2 本研究授業の提案について

本時では、登場人物の気持ちが直接的に書かれていない部分からも、気持ちを考えさせるように、以下について提案を行った。

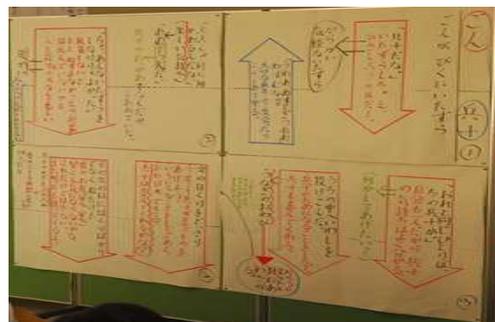
「ごん」の「兵十」に対する気持ちの変化を、「ごん」になったつもりで具体的に話し合い考えを深めてきた。本時では「だまっとうなずいたごんは兵十にどんなことを言いたかった」と考えさせたことにより、真剣に話し合うことができた。話し合い活動からは「兵十に気づいてもらえて本当によかった（喜び）」「兵十は俺の分まで長生きしてね（期待）」「まあ、当然の結果かな。たくさんいたずらしたから（納得）」という意見も出された。その他にも「驚き」「悲しみ」「励まし」を表す言葉を考えた児童もいた。（資料1）自分の考えだけでなく、友達と意見交換したことで、より深い話し合い活動へとつながり、「ごん」の気持ちを十分に考えることができた。



【資料1 話し合い活動】

3 本研究授業の授業技術課題について

(1) 登場人物の気持ちが直接的に書かれていない部分からも、気持ちを考えることができるように、これまで読み取った各場面の内容を掲示した。（資料2）掲示物では、読み取った内容を色分けし、「ごん」「兵十」のお互いに対する気持ちを矢印などで可視化させたことで、学習内容を想起したり、本時における読みの方向を確認したりする上で効果的だった。



【資料2 読み取ったことの掲示】

(2) 本時での学習活動は、各自が考えた「ごん」の気持ちを持ち寄り、似た考えごとに島を作るという「KJ法的手法」を取り入れ話し合い活動を行った。話し合い活動において付箋を活用し、付箋に書いた自分の考えを出し合い模造紙に張りながら自分の考えや友達の考えを話し合った。そこから、同じ考えや似ている考えをひとまとまりにして、新しい言葉にするという活動へ展開させていった。班の中心児童の考えに流されたり、新しい言葉が考えられず、友達の言葉をそのまま使ったりするのではないかと懸念していたが、出した付箋を基にイメージを広げ、別の新しい言葉へとつながった。「言葉の足し算」「友達の言葉を無くさない」という声かけも一人一人の考えを反映させて全体で共有させる上で有効だった。

4 今年度の研究授業を振り返って

今年度の研究では、2回とも付箋を活用して行った。付箋を活用することで、全員が個々の考えをまとめて書く機会（主体的）と時間が確保されるため効率がよかった。また、話し合い活動においては、自分の考えをもって参加でき、「伝え合う」こと（協働的）で表現力や発言力を身に付けさせることができたと考ええる。

研究授業から時間配分や授業内容の精選など基本を怠らないことが何よりも重要であることを改めて理解した。本研究で学んだことを、これからの授業に生かしていきたい。